

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学  
平成29事業年度の業務実績に関する  
全体評価結果

平成30年8月

大分県地方独立行政法人評価委員会

## 評価結果と判断理由

### 評価結果

全体として年度計画を順調に実施している。

### 判断理由

- ① 大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」についてはS評価（特筆すべき進行状況）であり、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「Ⅴその他業務運営に関する重要目標」についてはいずれの項目もA評価（計画どおり進んでいる）であること。
- ② 「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関して、平成30年度に開設する全学科横断型の「アートマネジメントプログラム」など、新たな学修の展開に向けた体制の整備を進めるとともに、進路支援プログラムと進路支援室の面接・相談により、就職率96.8%、進学率95.0%と昨年度に続き高い水準を維持し、卒業後の進路を充実させるなど、大学としての魅力の向上を図っていること。  
サービスラーニングによる活動、ジュニアオーケストラの指導や県立美術館でのデザインスクールの実施に加え、平成30年度に開催される国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭に向けて、各種事業へ参画し、地域社会への貢献を進めていること。

### <委員会からのコメント>

近年、企業への就職活動において、インターンシップは重要な役割を占めるようになってきている。学生の就職活動をより有利に進めるため、インターンシップのあり方について、一層深く検討されることを希望します。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等の 質の向上	<b>S</b> 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の改 善及び効率化	S 特筆すべき 進行状況	<b>A</b> 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の改 善	S 特筆すべき 進行状況	<b>A</b> 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検・評 価及び情報提供	S 特筆すべき 進行状況	<b>A</b> 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務運 営	S 特筆すべき 進行状況	<b>A</b> 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学  
平成29事業年度の業務実績に関する評価結果  
項目別評価結果  
(大項目評価)

平成30年8月

大分県地方独立行政法人評価委員会

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、41項目（ウエイト考慮後61項目）の全てがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②平成30年度に開設する全学科横断型の「アートマネジメントプログラム」など、新たな学修の展開に向けた体制を整備したこと。
- ③進路支援プログラムと進路支援室の面接・相談により、就職率96.8%、進学率95.0%と中期計画に掲げる目標値を達成したこと。また、既卒者に対する進路支援活動を新たに開始したこと。
- ④国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭に関する事業への参画など、地域に開かれた大学として地域社会への貢献を進めていること。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 教育の内容及び到達目標
  - ・平成30年度に開設する音楽科「音楽総合コース」及び全学科横断型の「アートマネジメントプログラム」に対応するため、カリキュラムの見直し等を行い、コース再編・プログラム開設に向け体制を整備した。
  - ・国際総合学科において、平成30年度から「国際ボランティア実習I・II」を新設することを決定した。また、秘書士・上級秘書士（国際秘書）・ビジネス実務士の資格認定カリキュラムについて、実践的学習をより重視した内容に改訂した。
  - ・情報コミュニケーション学科において、ジェネリックスキルテストを実施し、ポートフォリオを活用した学修指導やサービラーニング等の教育活動が社会人基礎力の育成に有効であることを確認できた。
- 教育の実施体制
  - ・教職員が積極的に県内外の高校を訪問し、進学ガイダンスに参加するほか、新たな広報媒体として進学本・進学サイトを活用した入試広報を行い、志願者の確保を図った。平成30年度入試において、志願者数は870名、倍率は2.56倍と高水準を維持した。
- 学生への支援
  - ・インターンシップへの参加促進や学内企業合同説明会の開催など、就職・進学それぞれに対応した進路支援プログラムによって学生への指導を行った。平成29年度の就職率は96.8%、進学率は95.0%で、いずれも中期計画に掲げる90%以上とする目標値を達成した。また、既卒者支援活動を開始し、卒業後も進路支援活動も含めた支援活動記録を蓄積することによって、進路支援活動の方向性及び有効性、今後取り組むべき課題を洗い出すことができた。
- 地域社会への貢献
  - ・サービラーニングによる活動のほか、ジュニアオーケストラの指導や県立美術館でのデザインスクールの実施、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の企画運営委員会への参画やプレイベントの企画運営など、県内の各種団体との協働に取り組んだ。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
教育	27(14)			13(4)	14(10)
研究	6(3)			3(1)	3(2)
社会貢献	8(3)			4(1)	4(2)
合計	41(20)			20(6)	21(14)
ウエイト考慮 後の合計	61			26	35

(注) 1 ( ) は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、41項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価(計画どおり進んでいる)となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- 教育の質の向上に向けて、PDCAサイクルを確立され、カリキュラムの整合性の点検を行われ、教育内容の充実や指導体制の整備等が積極的に図られている。また、短期大学の教育資源を地域社会へ還元されている活動は特筆すべきものである。
- これまでも教育の質向上に向け、持続的なキャンパス整備によるハード環境・空間整備をはじめ、ソフト的にはコース改編、カリキュラム整備、進路支援、ポートフォリオ、サービ斯拉ーニングなどの取り組みを続けており、教育内容の充実や指導体制の整備等を積極的に生み出す中、さらに中学教諭一種免許取得が可能なカリキュラム整備など、今後へ向けた成果が大いに期待される。
- 中学教諭一種免許が取得できるカリキュラム立案に向けて、引き続き前進してもらいたい。
- 「ゆたよい」での活動は素晴らしいと評価できる。

## Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

### (1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

### (2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、18項目（ウエイト考慮後22項目）のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②中学校教諭一種免許が取得可能な教職課程の認定に向けて担当教員の新たに採用したこと。

#### 【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 運営体制
- 新たな組織課題やニーズ等に対応するため、29年度にアートマネジメント委員会及び教職課程委員会を設置するとともに、知的財産支援室の設置を決定した。
- 人事の適正化
- 中学校教諭一種免許が取得可能な教職課程にすることなど、本学の教育目的が達成されるよう、美術科教職課程担当、音楽科教育法担当として教員2名を採用するとともに、情報コミュニケーション学科の広報・宣伝論の専任教員等、新たな展開に対応できる教員4名の採用を決定した。

#### 【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
運営体制	9			4	5
人事の適正化	5			5	
業務の選択と集中	4 (4)			2 (2)	2 (2)
合 計	18 (4)			11 (2)	7 (2)
ウエイト考慮 後の合計	22			13	9

(注) 1 ( ) は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、18項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

### (3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、10項目（ウエイト考慮後11項目）のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②公開講座（オープンカレッジ）、公開授業の受講料の収支観測を行うとともに、実施にあたっての広報活動の見直しを図ることにより、自己収入の増加に努めたこと。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 自己収入及び外部資金の獲得
- ・公開講座（オープンカレッジ）、公開授業の受講料について、開講講座ごとの収支観測を行うなどにより、現状を把握し、その結果をもとに受講料の妥当性等を協議した。
- 公開講座（オープンカレッジ）及び公開授業の開催に当たり、ホームページやダイレクトメールでの募集に加え、新聞折り込み募集チラシの配布時期を3週間早めるとともに、遠距離地域における前期・後期のチラシの配布方法を見直すことにより、受講者増に努めた。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
事務効率化・ 経費抑制	3			3	
自己収入・外部 研究資金の獲得	3(1)			3(1)	
資産の適正管 理・有効活用	4			2	2
合計	10(1)			8(1)	2
ウエイト考慮 後の合計	11			9	2

(注) 1 ( ) は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、10項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし



#### IV 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

##### (1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

##### (2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、6項目（ウエイト考慮後10項目）のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②マスメディアへの積極的な情報提供、進学本や進学サイトへの大学情報の掲載といった情報の発信を推進したこと。

##### 【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 情報公開や情報発信の推進
- ・記者クラブへの投げ込み、直接報道各社へのFAX等により、イベント開催情報など本学の活動内容をマスメディアに対して積極的に発信した。
  - ・入試広報について、新たな広報媒体として進学本・進学サイトを活用し、大学情報（学科紹介等）や入試情報を掲載するなどの広報を行った。

##### 【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
自己点検・ 自己評価	1			1	
情報公開・ 情報発信	5(4)			3(2)	2(2)
合 計	6(4)			4(2)	2(2)
ウエイト考慮 後の合計	10			6	4

(注) 1 ( ) は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、6項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

##### (3) 評価に当たっての意見、指摘等

- ・印刷物の表紙に卒業生のデザインを採用することは、本学の活動内容を効果的に発信していると評価できる。

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、14項目（ウエイト考慮後18項目）のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②キャンパス整備事業について、学修環境と安全確保に最大限配慮しながらを着実に実施していること。
- ③人権に係る教育内容について、状況の把握、強化へと努めていること。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 施設・設備の整備と活用
- ・芸術デザイン棟の建築（平成29年11月完成）、校舎間の引越しなど、キャンパス整備を計画どおり実施した。
- 大学の安全管理
- ・キャンパス整備事業において、進捗状況や歩道・迂回路の表示、学内徐行の徹底、休日利用による騒音対策など、学生の学修環境と安全確保に最大限配慮した。
  - ・海外渡航先の情報が入手できる外務省の「たびレジ」への登録と海外渡航届の提出の指導を徹底するとともに、海外危機管理マニュアルの策定に着手した。
- 人権啓発推進
- ・人権問題に関する科目を多面的に実施するとともに、外部講師による講演を実施した。
  - ・学生に対する人権問題に関する実態調査、意識調査を全学的に実施し、人権関連科目等の人権に関する内容を充実させる等、人権教育を強化することにした。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
施設・設備の 整備・活用	4 (4)			3 (3)	1 (1)
安全管理	6			5	1
人権啓発推進	4			2	2
合 計	14 (4)			10 (3)	4 (1)
ウエイト考慮 後の合計	18			13	5

(注) 1 ( ) は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、14項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- キャンパス整備が本格化したなか、県、施工業者、学内教職員等と緊密に連携し、安全に配慮しながら事業を推進した結果、学生の学修環境と安全確保ができたことは大いに評価できる。
- 校舎の新築、改築、修繕のため、校内は錯綜していると思われるが、安全面には十分配慮をしてもらいたい。